

〈現在の課題〉

- 市内で異なる収集体制があるため、転入者などには分かりづらい。
- コンテナが強風で飛ばされ、車などを傷つける被害がある。
- 収集物に合わせて複数の車種を使い分けているため、効率が悪い。

	湖西地区			新居地区		
	排出場所	排出容器	排出日	排出場所	排出容器	排出日
ペットボトル	資源物回収拠点	大型コンテナ	いつでも可	容器が配置できる ごみステーション	網 袋	月2回
飲料水缶					小型コンテナ	月2回
びん		月2回				
スプレー缶 ライター カセットボンベ		月1回				
乾電池		全てのごみ ステーション		ポリ袋	月1回	

〈排出方法の特徴〉

- 資源物回収拠点にいつでも排出できる。
- 回収容器は、資源物回収拠点に常設している。

- 資源物の排出日が決められている。
- 網袋や小型コンテナを配置できるごみステーションでは、資源物の収集を行っている。

〈課題〉

- 資源物の排出場所が少なく、高齢者等の負担となっている。
- 資源物は常に排出できるため、夜間等の騒音が問題となることもある。
- 大型コンテナによる収集には、専用の装置を車両に取り付ける必要がある。

- 収集日の前に、回収用のコンテナ等を配置する必要がある。
- パッカー車での収集ができない。

見直しの基本方針

- ①ごみ、資源物は収集日当日に排出し、可能な限りごみステーションで収集する。
- ②湖西地区の資源物収集用大型コンテナは廃止する。 ③市内のごみの排出方法を統一する。

収集方法の比較

	メリット	デメリット
ポリ袋	・スペースが狭いごみステーションでも資源物の収集ができる。 ・コンテナ、網袋は不要。 ・可燃ごみ、不燃ごみと同じような感覚で資源物を出せる。	・ポリ袋を購入する必要がある。 ・ポリ袋がごみとなる。
コンテナ 網袋	・ポリ袋を購入する必要はない。 ・分別が徹底されやすい。 ・ポリ袋分のごみは発生しない。	・小型コンテナや網袋を配置できるスペースが必要。 ・収集日前に、小型コンテナや網袋を配置する必要がある。 ・配置した容器の容量以上に資源物はいれられない。 ・配置したコンテナが強風で飛散し、周囲の物を傷つける恐れ。

●他市の資源物の収集方法（近隣9市へのアンケート調査より）

	収集容器			
	かご	網袋	かごと網袋の併用	ポリ袋
ペットボトル	3	4	1	1
缶	6	1	1	1
びん	7	0	1	1
スプレー缶等	5	1	1	2
乾電池	6	0	1	2

ごみの処理に関する「廃棄物処理法」では、市町村、市民、事業者について、ごみ処理におけるそれぞれの役割を定めています。

- 市町村 一般廃棄物を生活上の支障とならないうちに収集し、処理する。
- 市民 市町村が行う一般廃棄物の収集、処理に協力する。（ごみの分別や減量など）
- 事業者 排出した廃棄物は、自らの責任で適切に処理する。

市は、家庭や事業所から排出されたごみを衛生的かつ安全に処理できるような体制を整えなければなりません。

環境センターでは、市民のごみの直接持ち込みの対応は、処理能力の範囲内で行っています。しかし、ごみの焼却再開後は、現在浜松市へ搬入しているごみ（可燃ごみ等）の搬入先が環境センターとなることから、搬入車両の増加が見込まれます。

〈ごみの焼却再開後に懸念される課題〉

- ・環境センターの混雑により、家庭ごみの収集作業が遅延する恐れがある。
- ・搬入待ちの車列が公道まで延び、交通の支障となる恐れがある。
- ・場内の混雑による、事故の危険性が高まる。

【湖西市環境センター】

■ごみの受付日：月曜日から金曜日（9：00～16：30）・毎月第三日曜日

■持ち込めるごみ：粗大ごみ、一度に多量に出たごみ

※粗大ごみと併せて可燃ごみ、不燃ごみ、資源物も持ち込めます。

※ごみステーションに出せるものはごみステーションに出すよう案内しています。

■処分手数料：家庭ごみ 50円/10kg 事業ごみ 120円/10kg
資源物 無料（ごみと混載の場合は、計量を2回行います。）



表1 環境センターへの搬入車両の内訳

2019年度（令和元年度）

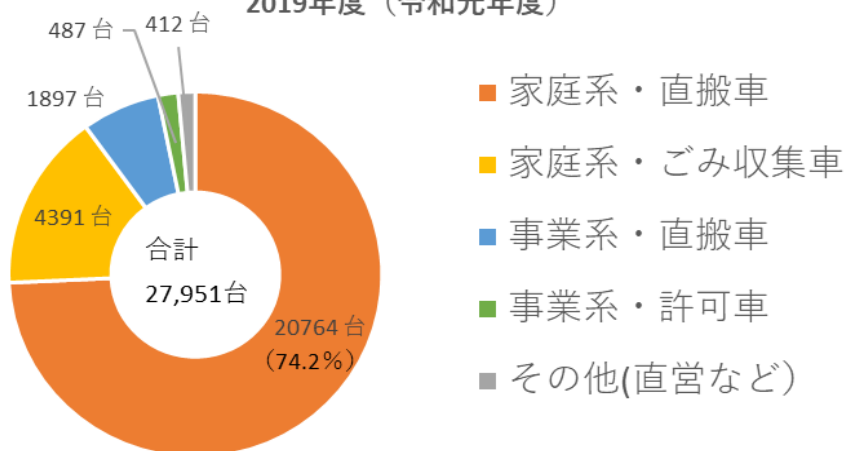


表2 家庭系ごみ収集車と事業系許可車の年間搬入台数の見込み

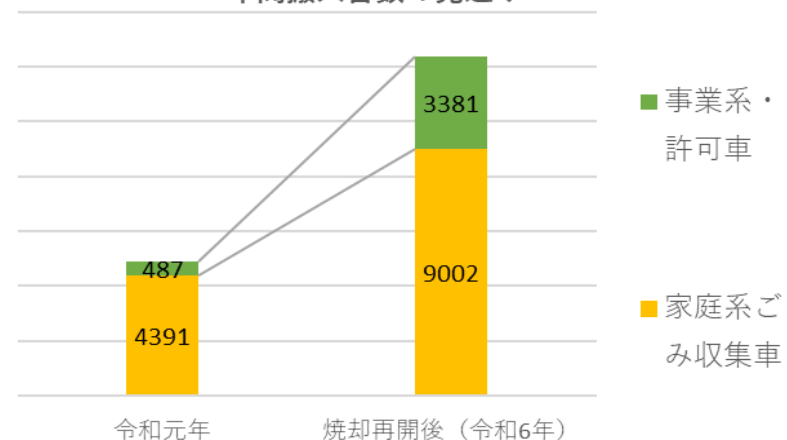


表3 環境センターへの家庭系直搬車両の推移（月～金曜日）

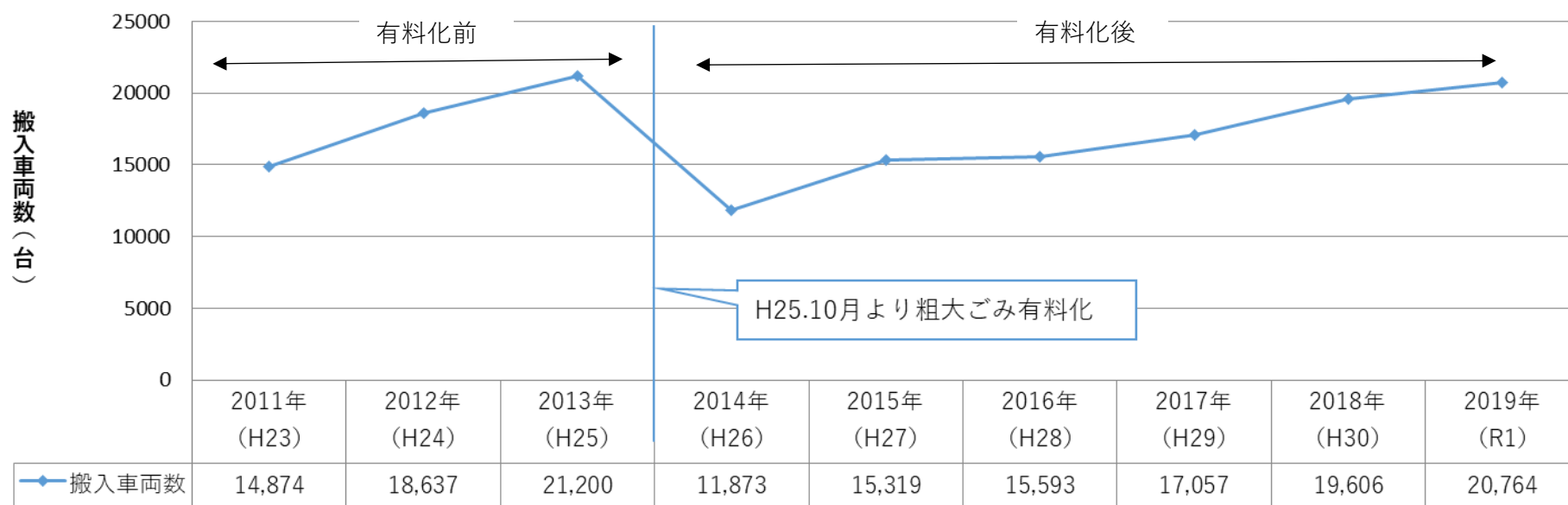
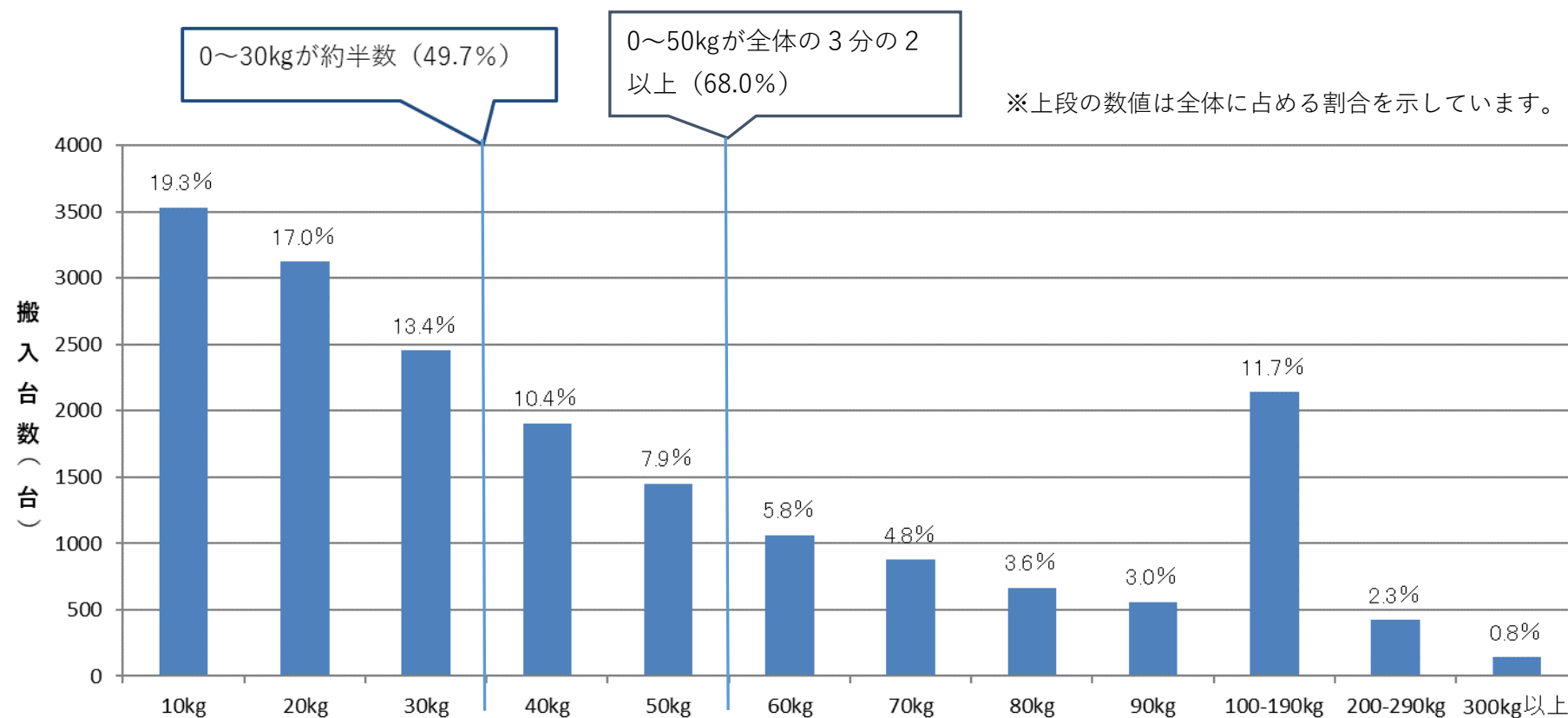


表4 環境センターへの家庭系直搬車両の重量別内訳（月～金曜日）
2019年度（令和元年度）



●直接搬入量の抑制のための対策事例

対策事例1 直接持ち込みできるものは、粗大ごみ（ごみステーションに出せないもの）のみとする。

目的 ごみの直接持ち込み量を抑制する。
ごみステーションへの排出を促す。

他市事例 ウェブサイト等での案内（蒲郡市）

●全国の有料化実施状況 出典：全国市区町村の有料化実施状況（2020年9月現在）（東洋大学 山谷教授）

	総数	有料化実施	有料化実施率
市と区	815	477	58.5%
町	743	519	69.9%
村	183	120	65.6%
合計	1,741	1,116	64.1%

対策事例2 ごみの持ち込み料金に最低金額を設定する。

目的 少量ごみの持ち込みを抑制する。
ごみステーションへの排出を促す。

他市事例 0～50kg：400円、51～100kg：800円（新城市）
普通車一台につき520円（袋井市）

対策事例3 粗大ごみの持ち込み量料金を、戸別収集の料金と同じに設定する。

目的 粗大ごみの直接持ち込み量の抑制

他市事例 粗大ごみの戸別収集料金：1点当たり300円～1,200円 自身で持ち込んだときも同額（浜松市）

対策事例4 直接持ち込んだごみは全て有料とする。

目的 ごみの直接持ち込み量を抑制する。
ごみステーションへの排出を促す。

他市事例 ごみ・資源物を問わず、持ち込んだ重量に応じて料金徴収（掛川市）

●ごみ処理施設にごみを持ち込んだ時の料金
（近隣9市へのアンケート調査より）

	有料	無料
可燃ごみ	7	2
不燃ごみ	7	2
資源物（※）	1	8

（※）ペットボトル・缶・びん